

| 解法ルート | | 到達目標 | 設問 | 評価 | コメント |
|-------|-----------|--|---------------|----|---|
| 解釈 | 素材文読解 | 素材文中の筆者の考え・主張を読み取れる | 問1 ・ 問2 | B | 〈歴史〉の二重の設定行為による擬態の性質は読み取れた。円環構造の中での時間に対する筆者の問題意識を読み取れていない。 |
| | 設問読解 | 設問で求められていることを押さえられている | 問1 | A | 「その効果」の内容を明らかにしながら「〈歴史〉は…語りだす」とはどういうことかを説明しなければいけないことを押さええている。 |
| | | | 問2 | B | 「円環構造」の語句的な意味と〈歴史〉における意味を明らかにすることは押さえられたが、筆者の主張を踏まえ、円環構造の中の時間の関係を説明する必要性に気づいていない。 |
| 構築 | 論拠に基づいた思考 | 解答のコアを論理的に洗い出したうえで、解答要素を説得力の高い内容に深めていくことができる | 問1 | C | 内容は読み取れていたが、傍線部の構造に即して言い換えていないため、〈歴史〉と〈過去〉の関係という解答要素が欠落している。 |
| | | | 問2 | C | 筆者の問題意識を踏まえて設問意図を考えていないため、遡及的に設定された〈過去〉の延長線上に現在と未来があるという、主張につながる内容を洗い出せていない。 |
| 発信 | 表記 | 正しく表記できている | 問1 ・ 問2 | A | 正しい表記で記述できている。 |

講評

難解な表現が多い問題文だったが、歴史と〈歴史〉の違いや、「その効果」「擬態」などの比喩的表現・抽象的表現の内容をしっかりと読み取ることができていた。

ただ自己発問では答えられているのに問一の解答に反映されていないなど、その読解が活かしきれていなかったのが惜しい。

また問二では、「〈歴史〉の擬態の性質によって、〈過去〉が客観的に存在した過去のように思えると同時に、〈過去〉の延長線上に現在と未来も存在するように思える」ということに対する筆者の問題意識を踏まえて「円環構造」を説明すべきであった。

京都大の現代文では、問題文全体を俯瞰し、筆者の思想を噛み砕いて示すことが求められる。なぜこの部分が問われているのか、傍線部が筆者の主張や主張の根拠とどう関係しているのかを、常に確認しながら解答要素を洗い出そう。今回のような問題文を読解する力があるのだから、あとはその方向を意識すれば得点力がぐんとUPするはずだ。